

沖永良部島 さとうきび栽培の手引き

目指せ！

春植	7トン
株出	8トン
夏植	12トン



沖永良部さとうきび生産対策本部
和泊町・和泊町糖業振興会
知名町・知名町糖業振興会
大島支庁沖永良部事務所農業普及課

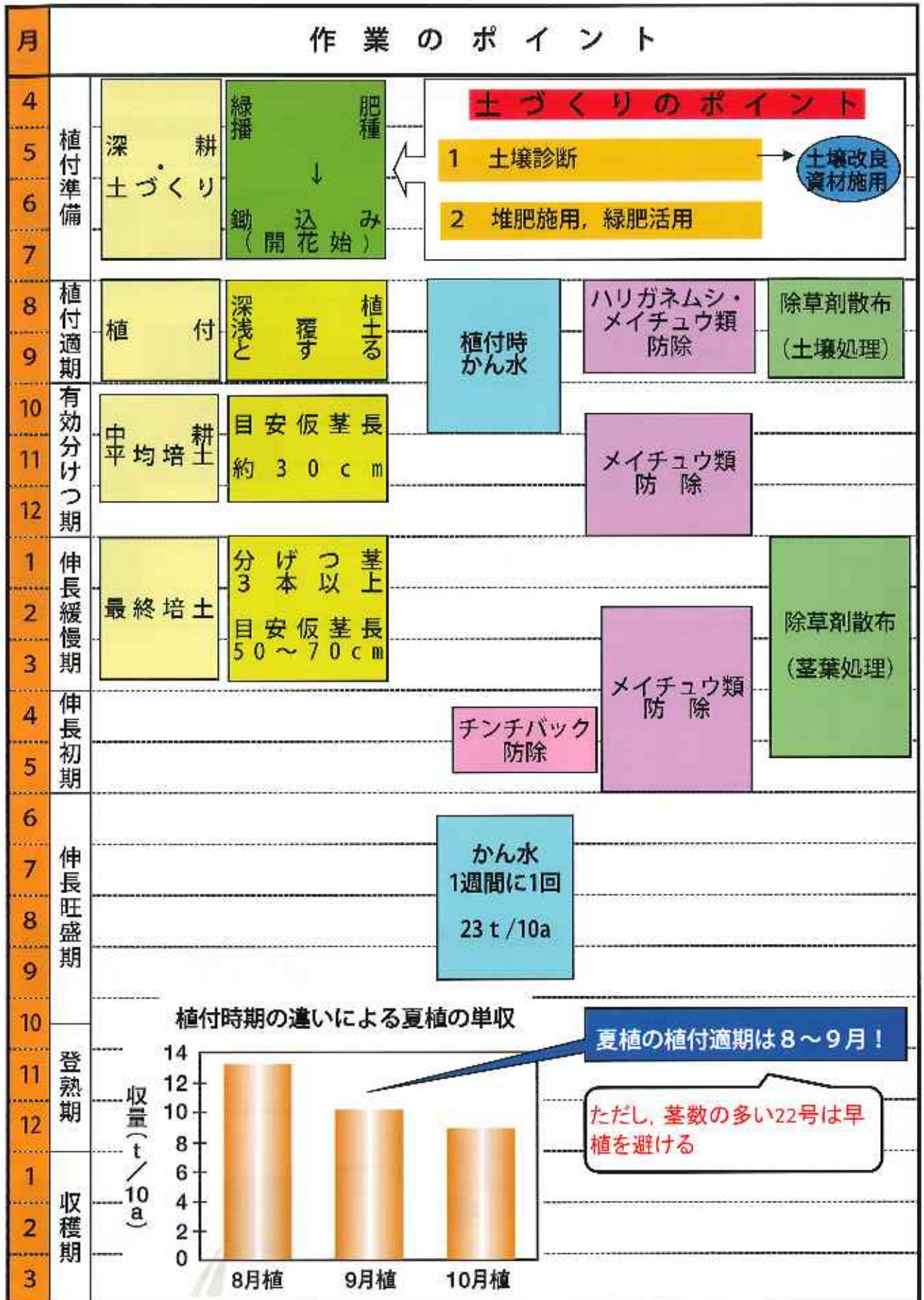
<令和2年3月作成>

目次

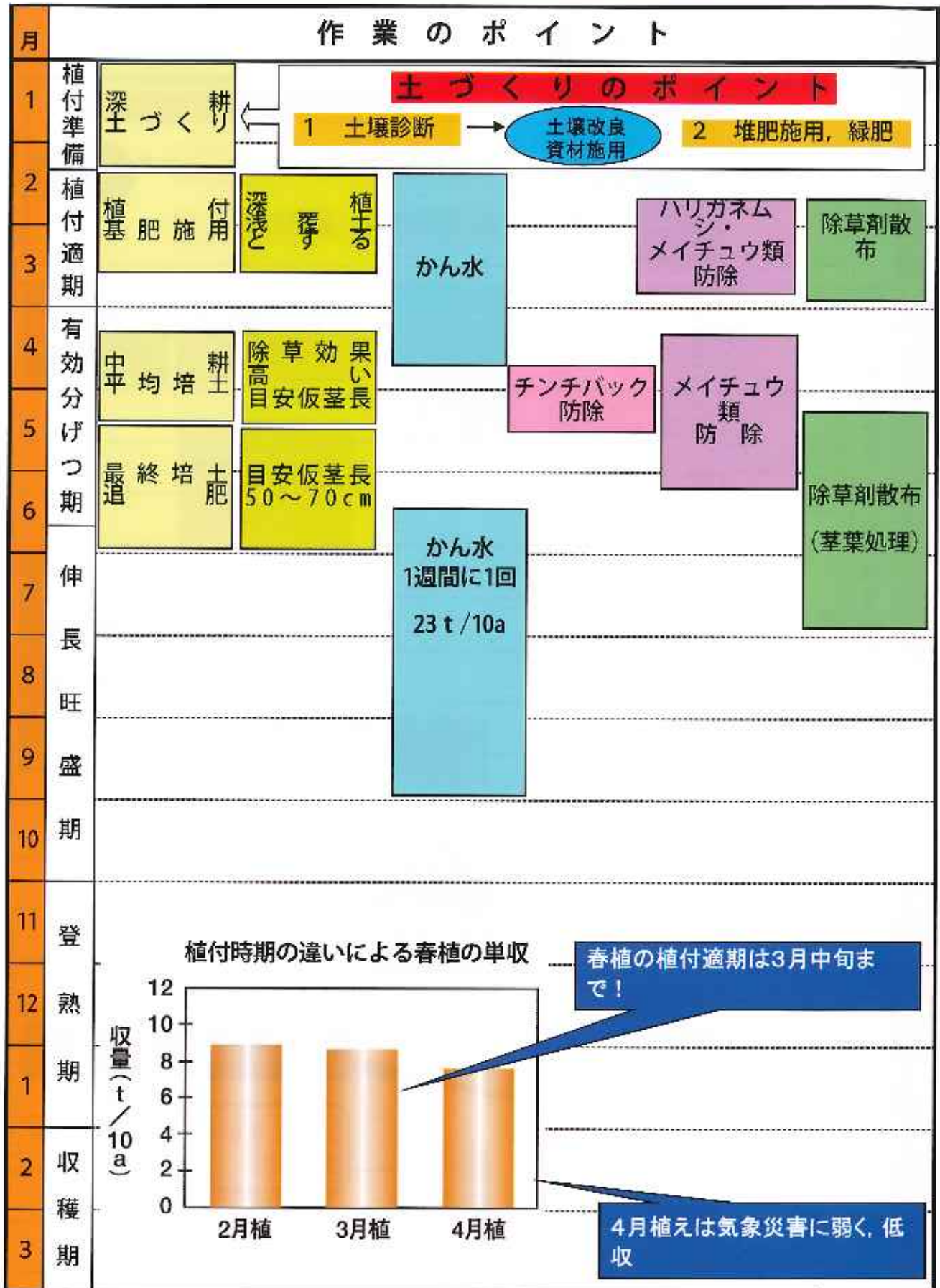
管理作業

夏植.....	1
春植.....	2
株出.....	3
さとうきびの収量.....	4
土づくりと土壤改良	
1 有機物による土づくり.....	6
2 深耕、心土破碎、中耕.....	7
3 土壤診断に基づいた土壤改良.....	7
施肥基準（目安）.....	8
肥料一覧.....	9
主な雑草	
①イネ科雑草.....	10
②キク科雑草.....	11
③カヤツグサ化雑草 カタバミ科雑草 ナス科雑草 ヒルガオ科雑草.....	12
④ツユクサ科雑草 タデ科雑草 ヒユ科雑草 ブドウ科雑草.....	13
雑草防除及び除草剤一覧	
(1) 土壤処理.....	14
(2) 茎葉処理（雑草茎葉に散布）.....	15
主な害虫.....	16
ハリガネムシ類 メイチュウ類.....	16
チンチバグ アブラムシ類 コガネムシ類.....	17
バッタ類 その他.....	18
農薬一覧.....	19
主な病害	
黒穂病 赤腐病 葉枯病 葉焼病.....	20
趙頭部腐敗病 モザイク病.....	21
農薬使用上の注意点.....	22
苗とハーベスタ収穫に適した植付.....	23
かん水の効果.....	25
品種特性	
農林8号（NiF8） 農林17号（NiF17） 農林22号（Ni22）.....	26
農林23号（Ni23） 農林30号（KN00-114） 農林27号（Ni27）.....	27

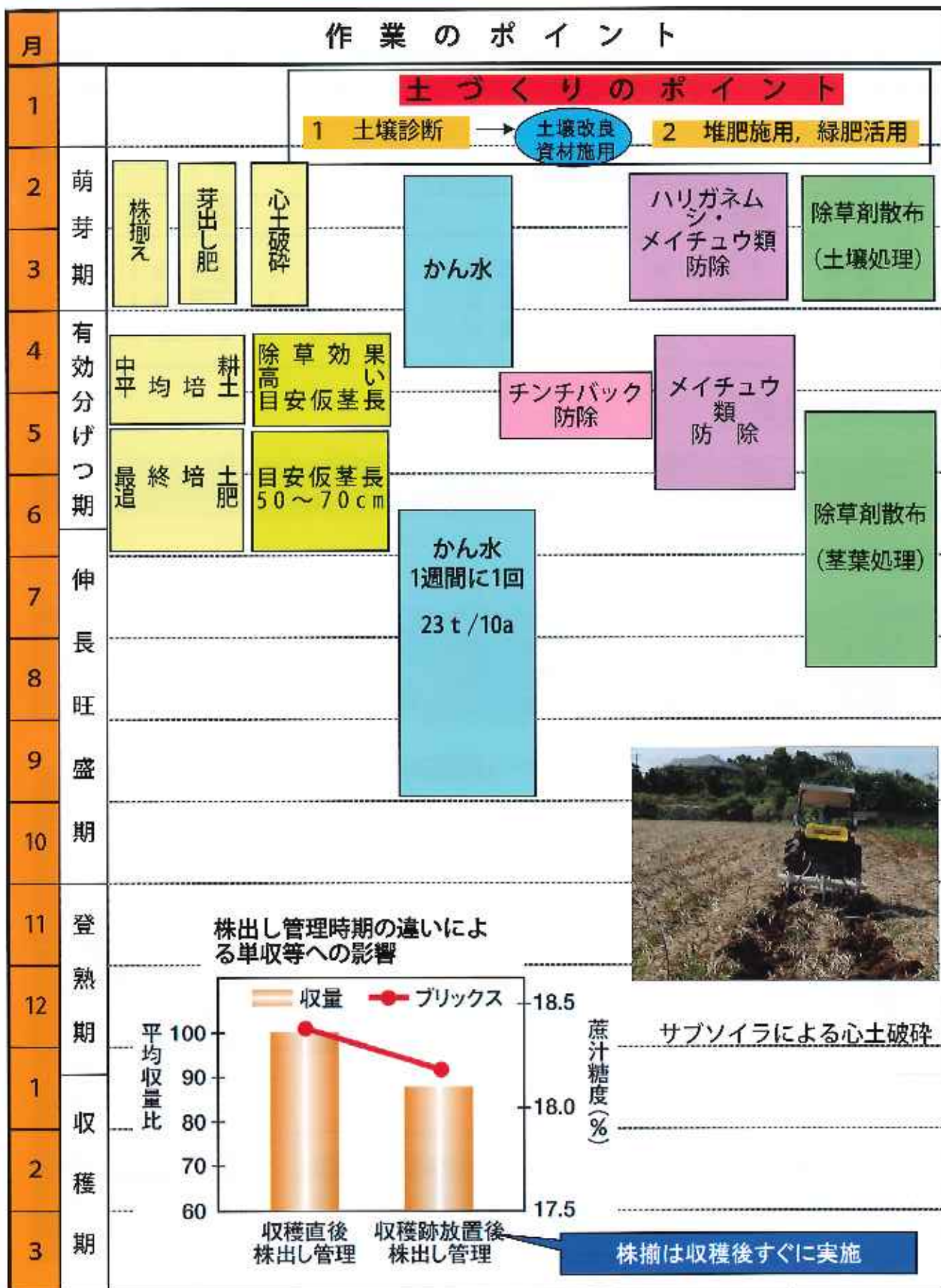
管理作業（夏植）



管理作業（春植）



管理作業 (株出)



サブソイラによる心土破碎

株揃は収穫後すぐに実施

さとうきびの収量

さとうきびの収量は、茎数×1茎重となります。このため、最初に必要な茎数を確保し、その後、1茎重を重くする（＝茎を伸ばす）ことが重要となります。

(参考)「農作物奨励品種特性表」のNiF8収量

	10a収量	10a茎数	1茎重	(茎長)
春植	7.2 t =	8,660 本 ×	842 g	(209 cm)
夏植	11.6 t =	8,320 本 ×	1,390 g	(278 cm)
株出	6.2 t =	7,610 本 ×	831 g	(214 cm)

植付本数の目安

二芽苗で3,300～3,500本／10a
 ※発芽や分けつ力など品種の特性に応じて植え付ける

茎数の目安

畦幅130cmで
 100本／10mの場合、 7,692本／10a
 80本／10mの場合、 6,154本／10a
 60本／10m以下の場合、 4,615本／10a ←補植や植え替えが必要となる

仮茎長の目安 ※仮茎長とは地際から梢頭部までの長さ

【春植・株出】 200～250cm
 【夏植】 250～300cm

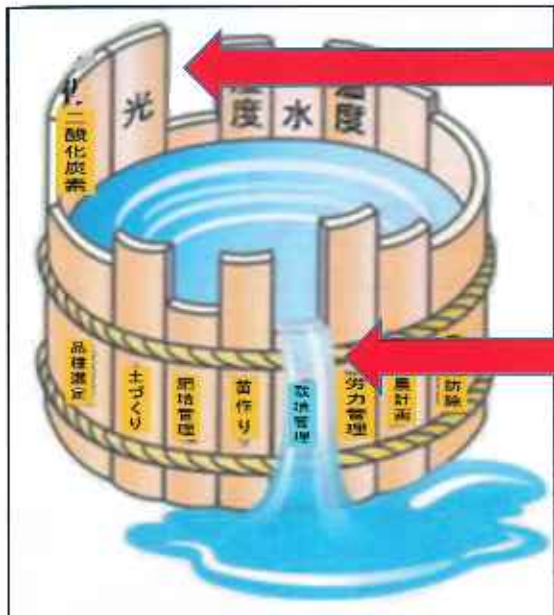
さとうきびの仮茎長の推移 (cm)

	5/1	6/1	7/1	8/1	9/1	10/1	10/15
春植	10	23	63	111	148	183	197
夏植	102	138	189	232	255	277	288
株出	17	39	104	150	182	210	220



早い段階で茎数を確保し、梅雨までにさとうきびを大きく育てる

植物の栽培には、多くの要素が有り、その中の1つでも欠けると、収量等が低下します。何が原因で収量が低いのかを把握し、バランス良く栽培管理を行うことが必要となります。



1つの要因がどれだけ良くても満水にはなりません。

最も悪い要因から、水はあふれ、そこまでしか水はたまりません。

さとうきび単収向上のために以下の内容を
バランス良く実施しよう

1 土づくりと土壤改良

- ①堆肥や緑肥等の有機物による土づくり
- ②新植時の深耕，心土破碎
株出栽培での速やかな中耕の実施
- ③土壤分析による土壤改良，適正な施肥

2 基本技術の徹底

- ①健全な苗生産と植付や管理作業の適期実施
- ②植付本数の確保や補植の徹底
- ③かん水による，早期の出芽・萌芽促進と
定期的なかん水による，茎長の伸長促進
- ④早期の雑草防除と適期の病虫害防除

土づくりと土壤改良

1 有機物による土づくり

(1) 堆肥投入

- ・牛ふん堆肥は全面散布で3～4 t / 10 aを投入する
- ・植付前に散布できない場合は、発芽揃い後から最終培土前に株元散布を行う。全面散布の半量が良い。

堆肥による土づくり効果

	物理改善	養分の補給				
		チッソ	リン酸	カリ	石灰	苦土
バガス堆肥	◎	○	○	△	△	△
牛ふん堆肥	◎	○	○	○	△	△
鶏ふん堆肥	×	◎	◎	○	◎	◎

(2) マメ科緑肥の鋤込み

- ・緑肥を鋤込みは、「肥料成分の補給」、「物理性の改善」、「雑草抑制」など多面的効果がある。
- ・マメ科緑肥は肥料効果が高く、きびの連作対策にもなる。



クロタリア セスパニア(田助)

マメ科緑肥の品種特性

	播種量 kg/10a	湿害 耐性	物理 改善	肥料 効果	雑草 抑制
クロタリア	6	×	○	◎	○
セスパニア早生	5	○	○	◎	○

<緑肥栽培の注意点>

①播種準備

- ・酸性土壌では生育が悪く、pH6～7に酸度矯正する。適正なpHになることで、さとうきびの生育も良くなる。

②播種

- ・播種は4～5月が一般的だが、梅雨入り前後は気温も高く、発芽も安定する。適度な降雨の前に、播種する。
- ・発芽安定のために、浅い覆土や鎮圧を行う（覆土の厚さは種子の3～5倍が目安）。
- ・施肥は通常いらないが、地力が低い畑では窒素成分で最大2 kg/10aを施用（セスパニアで初期生育が良くなった例あり）。

③鋤込み後～

- ・開花初期の茎が柔らかい頃（草丈150cm頃）が鋤込適期。簡易に鋤込めるプラウやストローチョッパーは作業能率が高い。
- ・鋤込み後、マメ科緑肥はすぐに分解する。植付は鋤込みから3週間以降が目安。

2 深耕，心土破碎，中耕

- さとうきびは深根作物で，根の伸長・発達
は生育に大きく影響する
- 60cm深耕すると，土中の空気・水分が増
え，根が発育する
- 耕起反転すると，土中の害虫・雑草の密度
が下がる
- 株出し栽培では，早期の株出し管理が生産
性の向上につながるため，収穫後直ちに管
理を行うようにする



けん引式土壌表面開裂・浅耕反転中耕機(スクープ)による中耕



スクープについて

- ハカマ堆積ほ場での浅耕，反転が可能
- ハカマを土づくりに活かせる
- 作業スピードが速い

3 土壌診断に基づいた土壌改良

- さとうきびの適正 pH は 6～7。植付前に必ず土壌診断を行う
- 酸性が強いと，低単収となる。苦土石灰等による酸度矯正を行う

土壌改良の基準値(石灰岩土壌の場合)

有効根群域	60cm以上
腐食	3%以上
pH (H ₂ O)	6～7
EC	0.3以下
石灰(mg/乾土100g)	392～420
苦土(mg/乾土100g)	32～60
カリ(mg/乾土100g)	19～47
リン酸(mg/乾土100g)	10～50

土壌改良資材の種類

苦土石灰	→	pH調整 石灰土
苦土重焼リン	→	リン酸土
ようりん	→	リン酸 石灰土
ケイカル	→	石灰土 ケイ酸

施肥基準(目安)

【夏植】

基肥		追肥		成分量(kg)		
				N	P	K
植付時(8月~9月) あまみきびBB539	2袋	11~12月 きび追肥用BBNK80	2袋	27.6	5.2	15.6
		3~4月 きび追肥用BBNK80	4袋			
植付時(8月~9月) あまみきびBB539	2袋	11~12月 きび追肥用BBNK80	2袋	27.6	11.2	13.6
		2~3月 さとうきびBB400	3袋			
植付時(8月~9月) あまみきびBB539	2.5袋	12~3月 さとうきびBB400	4袋	26.7	14.5	12.5

【春植】

基肥		追肥		成分量(kg)		
				N	P	K
植付時(2月~3月) あまみきびBB539	2袋	5~6月 きび追肥用BBNK80	2袋	20.4	5.2	11.6
植付時(2月~3月) あまみきびBB539	2袋	4~5月初旬 さとうきびBB400	3袋	20.4	11.2	9.6
植付時(2月~3月) あまみきびBB400	4袋			19.2	8.0	8.0

【株出】

基肥		追肥		成分量(kg)		
				N	P	K
2~3月(芽出し) 硫安(細粒)	1袋	5~6月	2袋	24.0	7.8	11.4
2月~3月 あまみきびBB539	3袋	きび追肥用BBNK80				
2月~3月 あまみきびBB539	3袋	4月~5月初旬 さとうきびBB400	3袋	23.4	13.8	11.4
2月~3月 あまみきびBB400	5袋			24.0	10.0	10.0

- 肥料は表面にばらまいたままにせず、必ず覆土すると肥料効果が上がり、きびの生育も良くなる。
- きびの生育が良い畑では、培土にあわせて追肥時期を早める。また地力に応じて、施肥量は調整する。

肥料一覧

肥料名	規格	成分	特記事項
さとうきびBB400 緩効性	20kg	チッソ-リンサン-加里 24%-10%-10%	緩効性の窒素 (LP80, LP140) を70%含み, 三要素が入った肥料
さとうきび880 (一発くん) 緩効性	20kg	チッソ-リンサン-加里 18%-8%-10%	緩効性の窒素 (LP140) を40%, 速効性の窒素を60%含み, 三要素が入った肥料
きびNKロング401 緩効性	15kg	チッソ-リンサン-加里 24%-0%-10%	緩効性の窒素 (LP80, LP140) と加里が入った追肥用
あまみきびBB539	20kg	チッソ-リンサン-加里 15%-13%-9%	速効性の窒素・リン酸・加里の三要素が入った基肥用
きび追肥用BBNK80	20kg	チッソ-リンサン-加里 18%-0%-10%	速効性の窒素と加里が入った追肥用
硫安 (細粒)	20kg	チッソ-リンサン-加里 21%-0%-0%	速効性の窒素が入った追肥用, 生理的酸性
尿素 (国産)	20kg	チッソ-リンサン-加里 46%-0%-0%	速効性の窒素が入った追肥用, 生理的中性

○主な肥料の窒素成分内容

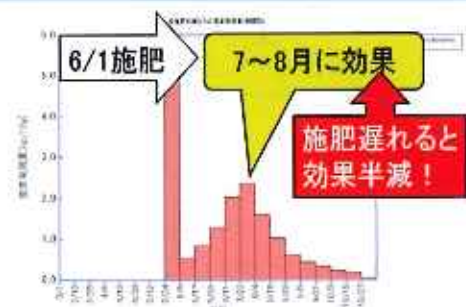
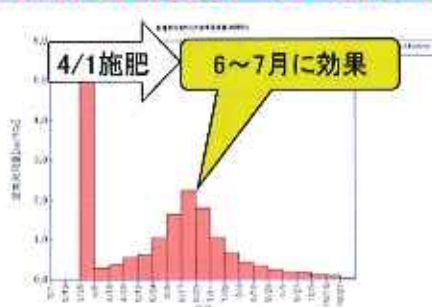
肥料名		窒素成分の内容	
速効性肥料	尿素, BB539, BBNK80等	速効性 100%	
緩効性肥料	BB800	速効性 約60%	緩効性(140日) 約40%
	BB400	速効性 約30%	緩効性(80日)約30%, (140日)約40%

※ 緩効性肥料について

緩効性肥料は地温で肥料成分がゆっくりと溶け出し, 効果が長効きする肥料です。また, 速効性肥料よりも, 肥料成分の利用率が2倍以上になるため, 施肥効果が格段に上がる。

○ 注意点

- (1) 通常の肥料よりも1袋当たりの窒素成分が多い
【今までよりも施肥量を少なくする】
- (2) 生育期間の長い夏植では, 最終追肥時に使用
- (3) 速効性肥料よりも早めに散布する
【梅雨入り前後までの散布が効果的】



イネ科雑草

〔 イネ科雑草が繁茂すると、メイチュウ類の被害を助長するため、防除を徹底する。 〕



メヒシバ
(1年性雑草)
ガギナ, ガギニャ



オヒシバ
(1年性雑草)
チカラグサ, ムトウウグサ



エノコログサ
(1年性雑草)
エージ



タチスズメノヒエ
(多年生雑草)
バカグサ

雑草名	カーメックス D	センコル 水和剤	アージラ ン	2-4Dアミ ン	シャドー 水和剤
メヒシバ	△	△	◎	×	×
オヒシバ	△	○	◎	×	×
エノコログサ	○	○	○	×	×
タチスズメノヒエ	△	○	◎	×	×

◎良く効く, ○効く, △少しは効果があるが再生する, ×効かない, ()は未確定

主な雑草②

上段:正式名 下段:地域

キク科雑草



タチアワユキセンダングサ
(1年生雑草)
サシクサ



ベニバナボロギク
(1年生雑草)
トゥビクサ, アメリカクサ



オオアレチノギク
(1年生雑草)
アカポーシ



ノゲシ
(1年生雑草)

雑草名	カーメックス D	センコル 水和剤	アージラ ン	2-4Dアミ ン	シャドー 水和剤
タチアワユキセンダングサ	○	○	○	(○)	(○)
ベニバナボロギク	△	○	(○)	△	○
オオアレチノギク	○	◎	○	○	○
ノゲシ	○	○	○	○	○

◎良く効く, ○効く, △少しは効果があるが再生する, ×効かない。()は未確定

主な雑草③

上段:正式名 下段:地域

カヤツリグサ科雑草

カタバミ科雑草



ハマスゲ
(多年性雑草)
ホーブシ



ムラサキカタバミ
(多年性雑草)
ヤハタソウ

ナス科雑草

ヒルガオ科雑草



イヌホオズキ
(1年性雑草)



ノアサガオ
(多年性雑草)
ハジラマキ

雑草名	カーメックス D	センコル 水和剤	アーシラ ン	2-4Dアミ ン	シャドー 水和剤
ハマスゲ	△	△	△	△	◎
ムラサキカタバミ	△	◎	△	△	(×)
イヌホオズキ	(○)	△	△	○	(×)
ノアサガオ	※	※	(×)	◎	×

※生育極初期(10~20cm以下)なら、カーメックス、センコルも効果有り

◎良く効く, ○効く, △少しは効果があるが再生する, ×効かない, (○)は未確定

主な雑草④

上段: 正式名 下段: 地域

ツユクサ科雑草



シマツユクサ
(1年性雑草)
トゥギナ

タデ科雑草



ツルソバ
(1年性雑草)
シーミクサ

ヒユ科雑草



アオビユ/ホナガイヌビユ(1)
ヒンニャ

ブドウ科雑草



ヒイラギヤブガラシ(多)

雑草名	カーメックス D	センコル 水和剤	アージラ ン	2-4Dアミ ン	シャドー 水和剤
シマツユクサ	(△)	○	(×)	○	—
ツルソバ	(×)	○	△	△	△
アオビユ	△	○	△	(○)	(△)
ヒイラギヤブガラシ	×	(△)	×	○	—

◎良く効く, ○効く, △少しは効果があるが再生する, ×効かない。()は未確定

雑草防除及び除草剤一覧

1 雑草防除のねらい

- (1) 生育初期の防除が基本。初期に雑草が繁茂すると、生育抑制や害虫被害を助長し、致命的となる。
- (2) 「深耕・中耕・培土」や夏植での「緑肥活用」など耕種的防除の効果は高いため、計画的に実施する。
- (3) 雑草が種子を作る前に防除することで、雑草の少ない畑に変えていく。

2 除草剤による防除

- (1) 土壌処理を基本とし、茎葉処理は補完的に行う。
- (2) 雑草が小さいうちの散布が効果高い。

3 除草剤使用上の注意点

- (1) 強風時の使用は避け、周辺作物への飛散防止に配慮する。
- (2) 散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。
- (3) 散布器具、ホース、タンク等は作業終了後速やかに水洗いすると共に他作物への使用を避ける。
- (4) 殺虫剤との混用は生育が抑制されるので行わない
- (5) 薬害の恐れがあるため、きびの茎葉にかからないよう散布する。

4 除草剤の特性と使用基準

(1) 土壌処理

除草剤名	適用雑草	使用時期	10a 使用量	10a 希釈水量	使用 回数	特記事項
センコル 水和剤	一年生雑 草, ムラサキカタバミ (ヤハタソウ)	夏植・春植は植付 直後～植付45日後 まで、株出は萌芽 45日後まで(但 し、雑草2葉期ま で)	300g	100ℓ	1回	・40～60日間の抑草効果 ・豪雨予想時は使用を避 ける
カーメックス -D	一年生雑 草	植付覆土後又は、 培土後	100～ 150g	70～ 100ℓ	1回	・40～60日間の抑草効果 ・豪雨予想時は使用を避 ける ・きびの出芽後は散布し ない

(2) 茎葉処理 (雑草茎葉に散布)

除草剤名	適用雑草	使用時期	10a 使用量	10a 希釈水量	使用 回数	特記事項
センコル 水和剤	一年生雑 草, ムササカハミ (ヤハソウ)	夏植・春植は植付 直後～ 収穫30日 前まで, 株出は収 穫30日前まで (雑草2葉期ま で)	100～ 200g	100ℓ	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・約1週間で効果発現し, 2～3週間で効果完成 ・ムササカハミは, 所定の使用量の範囲内で多めに使用
アージラン 液剤	一年生及 び 多年生雑 草	雑草生育期 (草丈15cm以下)	800 ～ 1,000m l	150～ 200ℓ	3回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・効果発現まで1～2週間, 枯死まで～8週間かかる。遅効性 ・干ばつ時の使用は薬害の恐れあり ・展着剤は使用しない
カーメックス -D カーメックス 顆粒水和剤	広葉雑草	雑草生育期(草丈 15cm以下)但し収 穫90日前まで	100～ 150g	100ℓ	2回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・薬害の恐れがあるため, きびの茎葉にかからないよう散布する ・気温の高い時期(20℃以上)の散布が効果的
2, 4-D 「石原」アミ ン塩	畑地一年 生広葉雑 草 畑地多年 生広葉雑 草	植付後又は株出管 理後30日以降 雑草生育期(草丈 30cm以下)但し収 穫90日前まで	300～ 500g	100～ 150ℓ	2回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・イネ科雑草には効果がない ・効果の発現が早い
シャドー 水和剤	ハマスゲ (ホーブ シ) 一年生広 葉雑草	ハマスゲ 3～5葉期 (但し収穫90日前 まで) 雑草3～5葉期(さ とうきび生育初 期), 但し収穫90 日前まで	100～ 200g 150～ 200g	100ℓ	2回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・有機リン系殺虫剤(スミチオ乳剤等)との近接散布(7日以内)は避ける ・散布直後の降雨は薬害の恐れあり ・イネ科雑草には効果がない

主な害虫

ハリガネムシ類 (オナワカシヤクシコメツキ, サシマカシヤクシコメツキ)



幼虫



成虫



【被害】

- 幼虫が地下部を食害し、不発芽・不萌芽、芯枯、莖数の減少、収量低下を引き起こす

【防除】

- 植付時に植溝へ薬剤を散布する

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
防除適期									

メイチュウ類 (イネヨトウ, カシヤクイハマキ)



イネヨトウ幼虫(紫色) カシヤクイハマキ
幼虫(黄色)



【被害】

- 幼虫が莖や芽を食害し、芯枯れ、莖数の減少、糖度低下、折損、不萌芽等を引き起こす

【防除】

- 生育初期の芯枯防止に重点を置く
- イネ科雑草の防除を徹底する
- 梢頭部に丁寧に散布する

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
防除適期									

チンチバグ (カンジャコバネガカムシ)



【被害】

- ・ 成幼虫が集団で葉を吸汁加害し、多発すると生育阻害を引き起こす

【防除】

- ・ 5月上旬(幼虫が2~3齢)の時に防除する
- ・ 梢頭部に丁寧に散布する

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
防除適期									

アブラムシ類 (カンジャワタアブラムシ)



【被害】

- ・ 成幼虫が集団で葉を吸汁加害し、多発すると生育阻害を引き起こす

【防除】

- ・ 発生初期に防除する

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
防除適期									

コガネムシ類 (アオドウガネ)



【被害】

- ・ 幼虫が地下部を食害し、欠株、倒伏、収量低下等を引き起こす

【防除】

- ・ 若齢幼虫を防除する
- ・ 多発地帯は夏植を主体とす

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
防除適期									

バッタ類 (セジツチケゴ)



【被害】

- 成幼虫が葉を食害し、生育遅延、品質・収量低下を引き起こす

【防除】

- 若齢幼虫を防除する

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
防除適期									

その他の害虫

クロマルコガネ



ヨトウ類(アフリカシロナヨトウ, ツマジロクサヨトウ)



農薬一覧

農薬名	系統名	適用害虫名						使用時期	希釈倍数 または 使用量	使用方法	使用回数	
		ハリガネムシ類	メイチュウ類	カナシカメバネシ	カンシラムワシ	アスジツチイナゴ	コガネムシ類					
アドバンテージS粒剤	カーバメート系						○	培土時	kg/10a 9	株元処理 土壌混和	1回	
		○	○					植付時	kg/10a 6 ~ 9	植溝処理 土壌混和	1回	
		○	○					培土時	kg/10a 6 ~ 9	株元処理 土壌混和	1回	
				○				収穫100日前 まで	kg/10a 3 ~ 4	散布	1回	
オンコロOK粒剤	カーバメート系						幼	生育期	kg/10a 9	株元散布 又は株元土壌混和	1回	
							幼	植付時	kg/10a 6 ~ 9	植溝土壌混和	1回	
		○	○					植付時	kg/10a 6 ~ 9	植溝土壌混和	1回	
			○					生育期 (分けつ期まで)	kg/10a 4 ~ 6	株元散布 又は株元土壌混和	1回	
サムコルフロアブル10	ジアミド系		○				イネヨトウ	収穫30日前まで	5,000倍 (100~300%/10a)	散布	3回 以内	
スミチオン乳剤	有機リン系		○	○	○	○		収穫45日前まで	1,000倍 (100~300%/10a)	散布	4回 以内	
スミチオン微粒剤F	有機リン系			○				収穫45日前まで	kg/10a 4 ~ 5	散布	4回 以内	
トクチオン乳剤	有機リン系	○					アオトウガネ	○	収穫90日前まで	1,000倍 (1.8%/㎡)	土壌灌注	2回 以内
アリスバイト	フェニルピラゾール系	○							植付時	kg/10a 6 ~ 9	植溝処理 土壌混和	1回
			○						植付時	kg/10a 4 ~ 6	植溝処理 土壌混和	1回
		○	○				幼	培土時	kg/10a 6	株元処理 土壌混和	1回	
		○						培土時	kg/10a 6 ~ 9	植溝処理 土壌混和	1回	
タントツ粒剤	ネコジフト系	○						植付時	kg/10a 4 ~ 6	植溝処理混和	1回	
				○				培土時	kg/10a 6 ~ 9	株元処理混和	3回 以内	
アレビアツ粒剤	ジアミド系		○					植付時	kg/10a 4 ~ 6	植溝土壌混和	1回	
			○					生育期 (最終培土まで)	kg/10a 4 ~ 6	株元散布	3回 以内	

主な病害

黒穂病		<p>【被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生育初期は葉幅が狭く黄緑化した立葉を持つ茎が群生し、梢頭部に鞭状物(黒穂)を生じる。 <p>【防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病株は株ごと抜き取り、焼却する。 ・ 抵抗性品種:農林8号, 30号。
赤腐病		<p>【被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に茎に発生し、葉や葉鞘にも発生する。茎の内部は赤変し、所々に横長の白斑を生じ、茎数減や糖度低下を招く。 <p>【防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メイチュウ類の食害痕から侵入する事が多いので、メイチュウ類の防除に努める。
葉枯病		<p>【被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉に淡黄色の紡錘形の斑点を生じた後、表裏両面に赤褐色の鮮明な病斑を生じる。感受性品種では、多発して乾燥枯死する。 <p>【防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多発する品種では、夏植及び株出栽培を避ける。
葉焼病		<p>【被害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉に黄色の小斑点を生じた後、赤褐色から褐色の条斑となり、多発すると葉は枯死する。 <p>【防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 罹病稚けつ、被害残葉等の病葉は、ほ場外に出す ・ 抵抗性品種:農林8号等

梢頭部腐敗病



【被害】

- ・ 芯葉及び茎の上部に発生し，葉が巻いたり，奇形を呈する。病勢が緩慢な場合は回復する。急激に進むと枯死することもある。

【防除】

- ・ 健全苗を植え付け，窒素質肥料の過剰施用を避ける。

モザイク病



【被害】

- ・ 未展開葉の基部等に，淡黄色や濃緑色で葉脈に沿って長さが不揃いの条斑を生じる。

【防除】

- ・ 種苗伝染の他，アブラムシ類で伝搬するので，アブラムシ類の防除に努める。

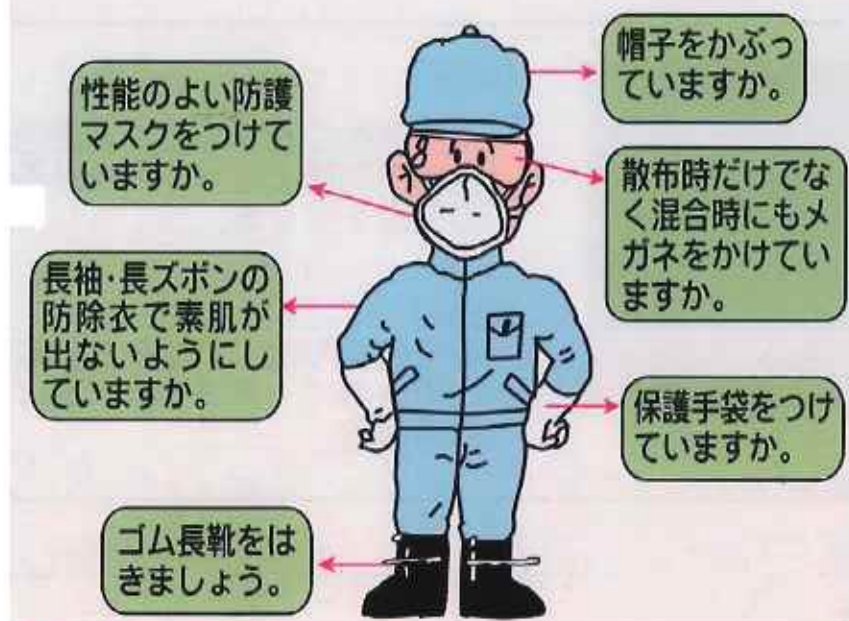
☆防除のポイント

- 発病株は見つけ次第，処分する。
- 窒素質肥料の多用を避ける。
- 健全種苗を植える。
 - ・ 新植は原則，優良種苗からの苗を使用する
 - ・ やむを得ず自家採苗する場合は病虫害被害の無い健全な株を利用する

農薬使用上の注意点

- 散布する前後は、次の事に注意する
 - ・体調のすぐれない時は、散布を止める
 - ・炎天下での散布は、避ける
 - ・散布後は、体を休める
 - ・近隣ほ場への農薬の飛散に注意する

安全装備のチェックを!!



農薬を水で薄めて使う場合の目安

倍数	水和剤の場合		液剤, 乳剤の場合	
	水の量 (ℓ)	薬量 (g)	水の量 (ℓ)	薬量 (ml)
500倍	100	200	100	200
	200	400	200	400
	300	600	300	600
	500	1,000	500	1,000
1000倍	100	100	100	100
	200	200	200	200
	300	300	300	300
	500	500	500	500
2000倍	100	50	100	50
	200	100	200	100
	300	150	300	150
	500	250	500	250
5000倍	100	20	100	20
	200	40	200	40
	300	60	300	60
	500	100	500	100

苗とハーベスタ収穫に適した植付

良質の苗を用いると、発芽発根が良く、初期生育が促進されます。また、欠株が少なく苗を節約することが出来ます。

○苗として好ましい条件

- ・ 芽子が充実して、硬化していない
- ・ 節間長が10～15cmで、太くて長い
- ・ 無病、健全で虫害が少ない
- ・ 出穂による茎内部の海面化立毛状での芽子の伸長がない

○石灰の処理効果について

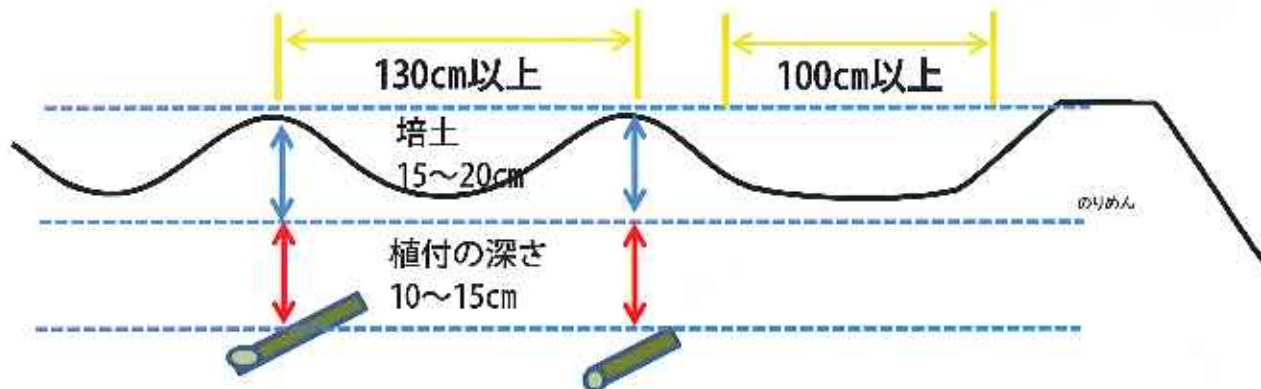
水浸漬により発芽は良くなります。これは、発芽歩合と苗の還元糖量には正の相関があるためです。

苗の含水量が増加すると、炭水化物が還元糖へ転換されますが、石灰処理をすると、苗の水分吸収量は純水浸漬よりも増加します。



消石灰500倍液に約半日浸漬

○苗の植付について



①畝幅は130cm以上



- ・ 畝幅が狭いと、トラッシュ率が上がり、ハーベスターロスも多くなり、翌年の株出に悪影響が出る
- ・ ブルトラを使用する場合は、130cm以上が必要

②植付時の苗の深さは10～15cm, 培土の高さは15～20cm



- ・ 植付時の苗を深植えすることで、倒伏を軽減
- ・ 不適切な培土は刈り取り精度が低くなり、ハーベスターロスも多くなる

③枕地は3畦程度



- ・ 機械の故障等トラブル発生の主因であり、多額の修理費ばかりか、農作業事故も懸念される

④周縁・畦部には植えない



- ・ 枕地に十分なスペースが無いと、旋回に多くの時間を要し、圃場を荒らすことになる

かん水の効果

梅雨入りまでに、さとうきびが生長し、ほ場がきびの葉で覆われていれば、台風や干ばつに負けない、立派なさとうきびに育ちます。

また、干ばつの対策は①早期かん水、②保水力向上(堆肥・緑肥)、③適期管理による初期生育促進の3つが欠かせません。

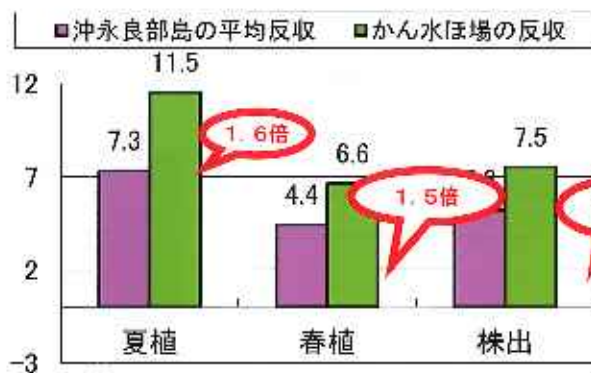
○かん水の時期と効果

【生育初期（植付，株出，培土時）】

- ・萌芽や出芽が早まり，初期生育が促進される。
- ・農薬や肥料の効果が高まる。

【生育中～後期】

- ・茎長の伸長を促進。
- ・潮風害の被害軽減。



梅雨明け後すぐからの定期かん水で、4～6割の増収(平成21度実証ほ場データ)

○かん水量

- ・1週間に1回，10a当たり23トンを目安にする。
小雨(日雨量10～20mm)の場合，上記かん水量の半分
大雨(日雨量20mm以上)の場合，その週のかん水は不要


※10a当たり23トンのかん水はは，23mm程度の降水と同じになります。



夏に2週間，雨が降らない時点で，見た目に変化なくても，生育停止が始まっている。地割れが入ってからのかん水は，効果が薄い

品 種 特 性

◎ 品種の力を発揮させるため、品種特性を活かした栽培を心がける

品種名	特性								
農林8号 (NiF8)	茎の色彩	品種の タイプ	早期 高糖性	株出し 萌芽性	低温 伸長性	脱葉性	風折 抵抗性	黒穂病 抵抗性	
	帯淡紫黄緑	中間型	○	良	△	易	やや強	強	
	長所	<ul style="list-style-type: none"> ・新植時に多収（特に夏植） ・耐病性が全般に強い ・脱葉性に優れる 							
	短所	<ul style="list-style-type: none"> ・株出萌芽性はやや劣る ・台風で、葉の裂傷が多い ・株上がりする 							
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・2月頃までに収穫することが望ましい ・分けつが少ないので新植時は2割ほど密植すると茎数確保しやすい ・水もちの良いほ場、かん水可能なほ場に作付する 								
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">芽の形状</div>  </div>									
農林17号 (NiF17)	茎の色彩	品種の タイプ	早期 高糖性	株出し 萌芽性	低温 伸長性	脱葉性	風折 抵抗性	黒穂病 抵抗性	
	淡黄緑	茎重型	△	極良	△	やや難	強	弱	
	長所	<ul style="list-style-type: none"> ・株出萌芽性に優れ、株出単収が高い ・台風で折れにくく、倒れにくい ・上位葉の再生が速いため、潮風害後の回復が早い 							
	短所	<ul style="list-style-type: none"> ・夏植時の単収が低い ・干ばつに弱い ・黒穂病に弱い ・脱葉性がやや難 							
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・かん水可能なほ場に作付けする ・分けつが少ないので新植時は2割ほど密植すると茎数確保しやすい ・梢頭部が大きい 								
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">芽の形状</div>  </div>									
農林22号 (Ni22)	茎の色彩	品種の タイプ	早期 高糖性	株出し 萌芽性	低温 伸長性	脱葉性	風折 抵抗性	黒穂病 抵抗性	
	帯淡紫黄緑	茎数型	◎	極良	○	中～やや難	強	中	
	長所	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽・萌芽・分けつ性に優れ、生育初期の伸長が良い(低温伸長優) ・多収 ・台風で折れにくい ・早期高糖のため年内収穫が可能 							
	短所	<ul style="list-style-type: none"> ・茎数が多いので手収穫に不向きである ・脱葉性が中～やや難 ・水分の多いほ場で根腐病に注意 							
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・茎数が多くやや細茎なので、HV収穫が効率的である ・排水の良好なほ場に栽培する ・夏植では早すぎる植付は避ける 								
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">芽の形状</div>  </div>									

品種名	特性							
農林23号 (Ni23)	茎の色彩	品種のタイプ	早期高糖性	株出し萌芽性	低温伸長性	脱葉性	風折抵抗性	黒穂病抵抗性
	帯淡紫黄緑	中間型	△	極良	○	中～やや難	やや弱	弱
	長所	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽・萌芽・分けつ性に優れ、茎伸長がよい ・多収 ・干ばつに比較的強い 						芽の形状
	短所	<ul style="list-style-type: none"> ・台風時、やや折れやすい ・黒穂病に弱い 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・風当たりの強いほ場での作付は避ける ・黒穂病対策を徹底する 							
農林30号 (KN00-114)	茎の色彩	品種のタイプ	早期高糖性	株出し萌芽性	低温伸長性	脱葉性	風折抵抗性	黒穂病抵抗性
	帯淡紫黄緑	莖数型	◎	良	○	やや易	やや弱	強
	長所	<ul style="list-style-type: none"> ・発芽・萌芽が良く、生育初期の伸長が良い(低温伸長優れる) ・脱葉性に優れる ・耐病性が全般に強い 						芽の形状
	短所	<ul style="list-style-type: none"> ・台風時、やや折れやすい ・低温時の萌芽がやや不安定 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・風当たりの強いほ場での作付は避ける 							
農林27号 (Ni27)	茎の色彩	品種のタイプ	早期高糖性	株出し萌芽性	低温伸長性	脱葉性	風折抵抗性	黒穂病抵抗性
	黄緑	莖重型	△	やや少	△	易	やや強	中
	長所	<ul style="list-style-type: none"> ・一莖重が重い ・夏植え多収、高糖 ・脱葉性易 						芽の形状
	短所	<ul style="list-style-type: none"> ・風でねじれると縦割れする ・水分が少ないと茎伸長が劣る 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・かん水可能なほ場に作付けする ・株が広がりやすいので、株出栽培するほ場の畝間は130cm以上とする 							

